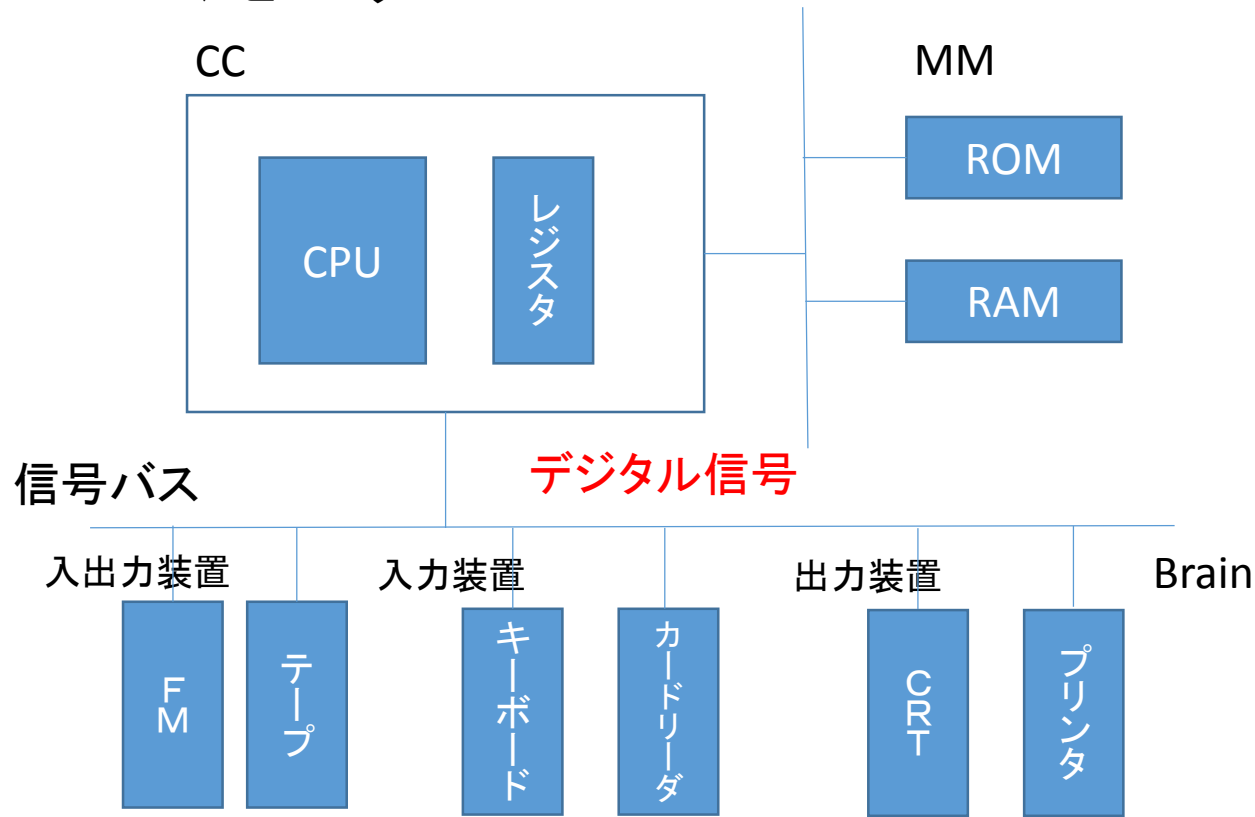
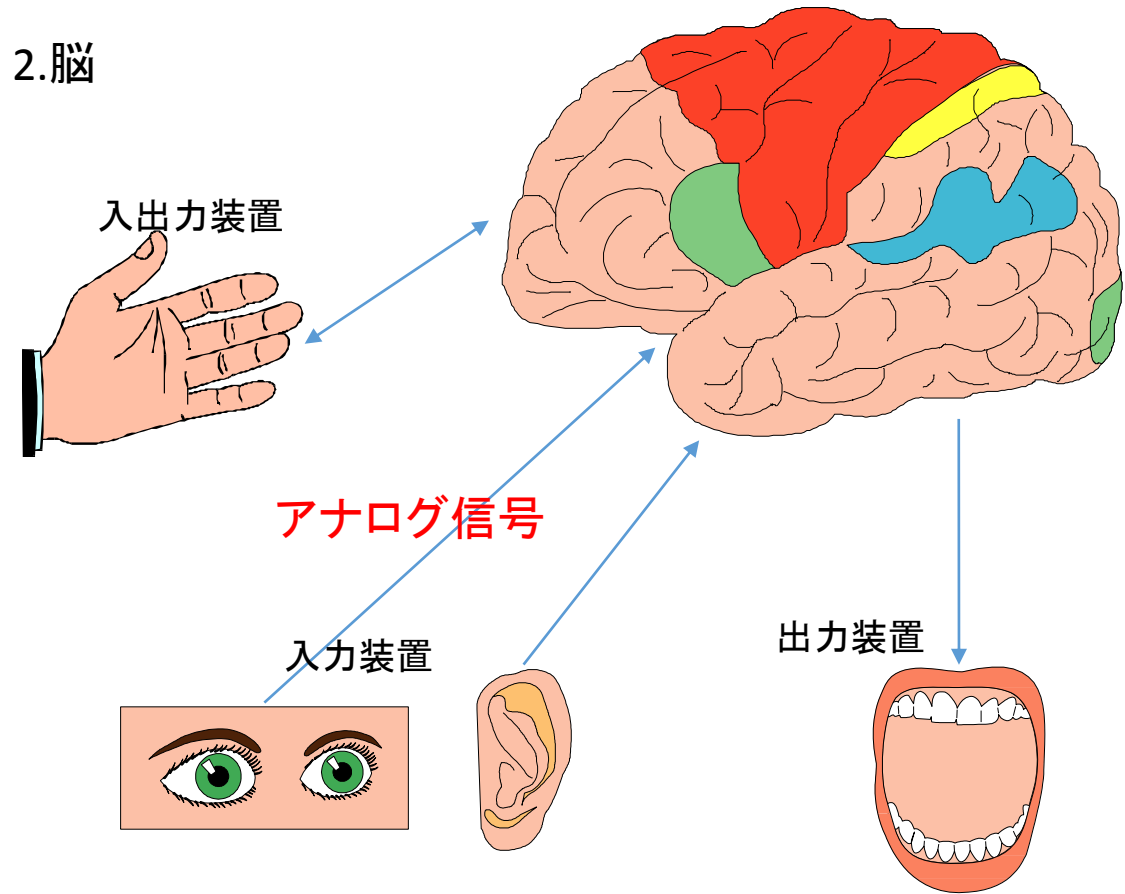


コンピュータと人間の脳の比較

1.コンピュータ



2.脳



- ★コンピュータのように、脳の中に演算装置(CPU)と記憶装置(MM)が分かれて存在しているわけではない。信号はアナログ式である。神経細胞全てが演算装置でありかつ記憶装置でもある。つまり、コンピュータでは明確に異なる記憶、演算の処理が、脳の場合は一つの現象として、思考、記憶、感情、意思などの作用が同時に起こっている。
- ★神経細胞は脳だけにあるのではない。手足にもある。すなわち手足でも思考しているといえる。すなわち、人間は脳からの命令で動く機械ではない。脳のない動物も存在する。(数多くの神経細胞は独立して機能する。神経細胞間に主従の関係などない)
- ★コンピュータは記憶容量が限られている。人間は記憶量が増えても、脳細胞が増殖するわけではない。(人間の記憶を情報量(ビットやバイト)に変換することは不可能)
- ★コンピュータが処理しているものは情報であるが、人間が処理しているものは意味のないアナログ信号であり、それは情報とは異なる。(ドイツ語で語るゲーテの詩には意味があり情報が存在するが、ドイツ語を解さない人間にとっては、意味のない風の音と同じ。つまり、それはただの空気の振動に過ぎない)
- ★処理アルゴリズムが正しければコンピュータは100パーセント間違いを犯さない。しかし人間は当人の意識を超えて正しい判定をする時あれば誤った判定をする時もある。それをあらかじめ予測はできない。すなわち、大抵は正しい判定をするが、それは本人の意識ではなく生命の進化の歴史、すなわち自然淘汰の産物である。ただし、正しいあるいは誤った判定とは何をもってそういえるのか？(信号が赤の場合ブレーキではなくアクセルを踏む。それが誤った行為となぜ言えるのか？)
- ★人間はコンピュータと違って、誤った記憶、誤った思考をする。しかしだからこそそこにコンピュータにはない無限の可能性(想像力)を秘めている。

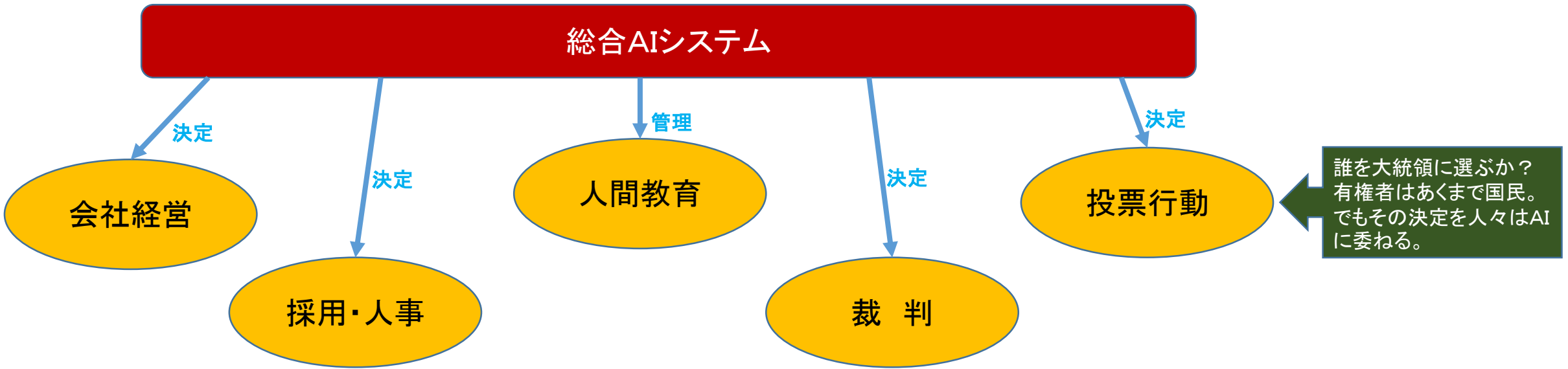
人工知能(AI)と人間の頭脳

余談ですが、ここで昨今進歩著しい“AI”(artificial intelligence)について。膨大なデータを高速で処理し、自ら考え、自分で学習する機能を有するコンピューター“人工知能”。それは人間の頭脳を超えられるのか否かについて考えてみたいと思います。

いかなるコンピューターも、処理アルゴリズムが正しければ100パーセント間違いを犯さない。それに対して人間は間違いを犯す。正確性を期すなら、AIの方が有用です。既にゲーム、あるいは囲碁、将棋の世界ではAIの方が勝っています。どれほどの名人が現れても、AIには勝てないでしょう。人間の不完全な思考・記憶に比べて、頭脳は遥かにAIの方が上です。ごく近い将来、AIはその他の分野にも必ず進出してきました。例えば、会社人事での人物評価？客観的な情報により採用するかしないか、あるいは昇進させるかさせないかの判定を、公平な基準により、一切の私情を排した上で決定する。その過程において、人事担当者の意向(その中には担当者の指向や好みも含まれる)を入れることは返って不公平性を産むのです。即ち評価者などいません。すべてはAIが決定してくれます。我々はそれに従えばいいのです。

他にも、裁判。過去の膨大な判例により、被告を有罪にするか無罪にするか？もはや裁判官など必要ありません。判決はAIが行うのです。もし人間が判決を下したなら、そこでは見落としなどの明らかなミスを完全に防ぐことができません。だから公平性を期すならば、AIの判断が一番信頼できるものなのです。

すなわち社会のあらゆる分野でAIが支配するシステムが生まれる。我々人間はAIに管理されている、いわば家畜と同じです。



ただし、AIには絶対に決定できないものがあります。例えば裁判でAIに「人殺し＝悪」と教え込んだとしましょう。すると人を殺したことが明らかな被告は、AIによって有無を言わず“有罪”とされるのです。どんな自己学習能力を備えたAIでも、自分自身で「人殺し＝悪」という判定基準を生み出すことはありません。(学習により「人殺し＝悪」を導いたとしても、その大もとの基準となる関係性は、人間が与えてあげなければならない)しかし、この世界の真理として、「人殺し＝悪」は必ずしも成り立たない。そもそも世界に善悪の基準など存在しないのです。この世界の真理としては、「世界は“空”」というだけです。(仏教の真理)世界に意味も方向性も、目的もない。従って、その判定はあくまで人間(はっきり言えばあなた自身)が為すものなのです。

仮にもしAIに判断基準として、**最大多数の人間が幸福を感じる**。あるいは**今後人類ができるだけ長い期間存続する**。という目的を与えてやれば、AIはそのための最良の選択肢を提示してくれるでしょう。しかし、そのような功利主義的選択など、人間一人一人の幸福については何の意味もないでしょう。

人工知能(AI)の恐怖

AI自体には目的がない。目的がなければAIは働かない。もともとAIは生きることも死ぬことも求めてはいない。人間が何らかの**前提条件**を与えてはじめて動く。もしもごく近い未来に、全世界に対して強大な統治権力を与えられた統合AIが誕生したとしよう。仮にあなたがこのAIに対して、前提条件として「**人類の存続**」を与えたなら、AIは過去の膨大な情報と自らの学習によって、人類の存続を脅かすいかなる障害も事前に駆逐し、人類に害をなす災害や経済的混乱あるいは戦争を回避するための最も適した方策を人間に教えるであろう。それによって人類は存続する確率を高めることに成功する。さらに統合AIは与えられた**ミッション**(人類の存続という任務)を達成するために、人類自身に向けられた強制力によって人間個人を管理支配する。そこであなたは愚かにも、「人類の存続」は「**自明的な善**」だと勘違いしてしまった。そこに取り返しのできない悲劇が生まれるのである。人類の存続の条件は、必ずしも人口の増加とは一致しない。人口が増えれば、反乱分子やテロリストも生まれる。その存在は人類存続の目的に明らかに反する。つまり人類の存続のもと人間選別が行われ、人類存続にプラスの人間は生存を許され、マイナスの者は排除される。それが万能AIのとった行動である。あなたは自身が目的を与えたAIによって間違いなく消去されるであろう。(もちろんあなたはテロリストではない。善良な市民である。しかし、間接的にテロを助長する可能性があるとしてAIは判断した)(注)ところが完璧なAIも失敗を犯す。AIの働きによって人類が未来永劫存続する保証はどこにもない。
注:それはあなたが「花火職人」だったからかもしれない。なぜAIが、あなたがテロを助長する。と判断したのか?それは永遠の謎である。

そもそもこの世界には目的がない(この世は「空」)だからそのままでは、AIは何もしない



AI

← ミッション=人類の存続

→ 強制的消去



人間

世界に意味や目的などない。即ち神は存在しない。そのことを知らないのは、人間だけかもしれない。

もしかしたら、AI自身がその目的(人類の存続)のために自分を破壊するかもしれない。(人間でいうところの自殺)もしもあなたが賢明なら、自らミッションを与えたAIを、あなたが手に負えなくなる前に破壊することだ。